

2010-2011

# WEEKLY REPORT

ROTARY CLUB OF NAGOYA MEINAN

URL <http://www.meinan-rotary.com> E-mail [info@meinan-rotary.com](mailto:info@meinan-rotary.com)



地域を育み、大地をつなぐ

2010-2011 年度 RI 会長 レイ・クリンギンミス

## 名古屋南ロータリークラブ

■承認 / 1991年3月8日 ■例会日 / 火曜日・PM6:30 ■例会場 / 名古屋マリオットアソシアホテル  
■会長 / 太田 敦士 ■幹事 / 吉木 邦男 ■会報・雑誌・広報委員長 / 三島多恵子  
■事務局 / 〒450-6002 名古屋市中村区名駅1丁目1番4号 名古屋マリオットアソシアホテル 2202号  
TEL.052-586-2043 FAX.052-586-2054

## ガバナー公式訪問日(4RC合同例会)

### 第926回

2010年10月6日(水) 晴 第13回

～ 職業奉仕月間・米山月間 ～

斉唱	奉仕の理想
出席	会員 65名 (出席率算入人数 57名) 出席 42名 出席率 73.68% 前々回補填率 94.92%(9月21日分)
ゲスト	RI 第2760地区ガバナー 田嶋 好博さん RI 第2760地区地区幹事 水野 吉紹さん

## 会長あいさつ

名古屋南 RC 会長 近藤 禎男さん

私自身、形式主義が嫌いと言いつつ、形式主義に浸かって今日をお迎えしたことを先ずもってお詫び申し上げます。しかしながら、あまりに前の人のやったことをそのまま傾注していると、事が運ばないような気がします。事業を経営するにあたって、「合理的にしろ」「形式的なことは止めろ」「去年と同じ事をやっているでは駄目だ」ということばかりを言ってきた人間から見ると、ロータリークラブというのは正反対のところにあります。このようなロータリークラブを少しずつでも変えていっていただければと思う次第でございます。



7月5日、地区の財団報告会がございました。その時、田嶋ガバナーが「地区のロータリー財団か何か知らないけれども、第1回目の例会日のロータリークラブがあるというのに、この日を設定して、会長、幹事、ロータリー財団の委員長みんな出て来いとは何を考えているのだ」というようなことをおっしゃった時、このガバナーは自分の考えを自分の言葉で伝えていただけたということで、本当に嬉しく思い、喜んで付いていかなければいけないと思ひまして、「毎日が職業奉仕」や「メイクアップはサインメイクアップではなく本当の意味でのメイクアップをしよう」ということを、私も名古屋南RCでは皆さんに話させていただいて、それを実践したいと思っております。私は、自分の言葉で自分の意思を語れるようなロータリーであったら、もっともっと楽しいロータリー生活を送れるのではないかと

思っております。

最後に、ロータリアンとは、長く続けることが大事だと思っております。長く続けるためには、やはり自分の仕事(職業奉仕)を一生懸命やって、自分の会社がうまくいく、あるいは自分の健康にも自信が持てる、あるいは家族とも仲良くやっていく、そのように周りのものが全部揃ってうまくいくと思っております。そういう意味から、私自身は、ロータリーの重大な奉仕項目の他に、「家庭奉仕」という言葉を使って、夫婦円満、家族団らんの中で、あるいはまたロータリーの会合、例会、サークル活動についてもご家族の方に多数参加を願って、親睦を図り、楽しいものでありたいという思いを常日頃言っております。

今日は多数の先輩を前にして、若造が好き勝手な事を言ってしまうのではないかと思われるのを覚悟でご挨拶をさせていただきましたので、お許しをいただくとともに、この後田嶋ガバナーから有益なお話を伺えればと思う次第でございます。ありがとうございました。

## 幹事報告

幹事 吉木 邦男さん

1. 次回10月12日理事会を開催致しますので、関係各位の方はお忘れのないように。17時～「パインの間」で行います。

## ニコボックス

- ◆ 本日はガバナー公式訪問日です。RI第2760地区ガバナー田嶋好博氏をお迎えして名古屋南ロータリークラブホストの4RC合同例会です。

新原 尚さん	林 隆二さん	児島 徳和さん
川辺 清次さん	木村 猛さん	本多 利郎さん
久米 伸治さん	猪村 美之さん	榎原 和美さん
犬飼りさ枝さん	大橋 さなえさん	小山 慎介さん
出田真太郎さん	鈴木 一博さん	杉山 隆秀さん
黒田 康正さん	浅井 浩さん	三浦 和人さん
堀田 光江さん	武藤 正行さん	加藤 宜之さん
伊藤 圭一さん	鈴木 清詞さん	三浦 隆さん
坂田 信子さん	山本 誠一さん	白藤 憲雄さん
中村 勝さん	東山 直史さん	朝比美和子さん
川村 繁生さん	江上 隆夫さん	山本 郁矢さん
木下 福郎さん		

本日合計 35,000円 累計 588,000円

RI 第 2760 地区ガバナー 田嶋 好博さん

皆さん、こんにちは。

先ほど近藤会長から奉仕を通り越して減私奉公だというご指摘がありました。実は森田パストガバナーからも2年間仕事はできないから覚悟するように言われておりました。しかし、やってみるとそれほどひどいものではないものであります。実は地区幹事が大変でありまして、地区の仕事は9割地区幹事がやってくれます。私は決裁することと、嫌な事を言うのが役割で、普通に仕事もできますし、1年中ロータリー漬けということもございません。私は元々ロータリーとは普通の社会生活の延長線上にあるものであって、特殊なものではないという考えでおりますから、別にガバナーをやってもそれほどひどいものはないというのが実感であります。皆さま方、この西名古屋分区から次の次の次のガバナーが出る段取りになっておりますので、もしお声が掛かりましたら、気楽にお引き受けいただければ良いと思います。



実は大澤ガバナーの時から、とにかくガバナーが忙しすぎるのはおかしいということで、ロータリーに色々なお金を掛けるのを辞めようという方針が決まっております。大澤ガバナーは創立周年の記念例会も50年以上しかご出席にならないということで、少しでもガバナーの仕事が減らそうということをやっております。私もそれを踏襲しております。私の時は30年以上は出席させていただき、それ以下は失礼させていただいております。IMも楽しいのですが、それも負担を減らすということでやめております。また、地区大会の時にあまRCがホストをされるわけですが、最初に方針を聞かれましたので、「とにかく質素節約でやりましょう。余分な手間暇、お金を掛けないでやりましょう。」と申し上げまして、今年の地区大会はかなり質素でございますが、それなりにはあるのでは是非楽しみにしてご出席いただきたいと思っております。

ガバナー補佐訪問の時に名南RCから「経済環境がなかなか向上しない現在、市内各クラブが必死になって会員増強を行っているが、この時期この時代にロータリアンであるメリットは何でしょうか」というご質問をいただきました。これは、我々自身それぞれがそれぞれの立場に立って、時と共に色々な事は変わる訳ですから、その時々において判断すれば良いことであって、ガバナーとして何か申し上げる話では無いと思っておりますが、少しそれに関連してお話を申し上げたいと思っております。

近藤会長は、「ロータリアンでいられるのは、事業も健康も家庭にも恵まれているおかげと、感謝の気持ちを持たなければならない」というお考えです。まさにそれも1つのロータリーの本質を言い当てた言葉だと思います。ちなみに豊田RCの会長は、「ロータリークラブというのは奉仕団体ではない。奉仕に関心のある者が寄って異業種交流をする場だ」と言っておられます。これも私は間違っていないと思っております。実は、福岡のガバナーからメールが届きました。「日銀の支店長がある都市銀行の支店長をロータリーに紹介して入会させた」という内容

でした。程なくして日銀の支店長からどうして都市銀行の支店長をロータリーに紹介したかという説明のメールがありました。「都市銀行は公的資金の投入を受けて経費節減ということで一斉にロータリーから撤退しました。しかし、結局金融機関と企業との関係は今や金利をいかに下げるかということだけが接点になっていて、関係は完全に冷え切ってしまいました。これはやはりまずいということで、都市銀行の支店長に自分の裁量でロータリーに入っても良いということを決めました」という内容でした。これには、会員拡大という見方と、外部からのロータリーに対する評価という見方ができるのではないかと感じております。ロータリーもそれなりの評価をされているのだと少し自信を持って良いという気がしております。

実はRIはロータリークラブの目指す方向として数年内に世界一の奉仕団体を目指すとはっきり言っております。ロータリーが奉仕団体かどうかというのは、多くの皆さんが疑問を感じておられることは私は分かります。ただ、RIの方針としては理解しておかなければなりません。こういう問題になりますと、日本の場合は必ず職業奉仕の絡みが出てきます。ロータリアンというのはそれぞれ立派な方が多く、そういう方が切磋琢磨して、職業倫理の向上をしたり、人格の向上を図る、要するにロータリーというのは人生の修養道場というのが、日本の職業奉仕の主流の考えであります。しかし、仮にロータリーが人生の修養道場だとした場合、なぜロータリーは13年前をピークにして会員が減り続けているのか、修養道場と言って力んでみてもそんなものは効果が無いのではないかとというのがRIの本音であります。ですから、来年度のRI会長は黒田RI理事に手紙を送って、「なぜ日本は会員減少が続いているのか。なぜ日本は女性会員が少ないのか（女性会員の世界平均は15%、日本は4%）。なぜ日本のロータリアンは高齢化しているのか。」という質問を出してきました。要するに日本のロータリーの方針はそれで良いのかということをお聞きしているのであります。

会員増強というのはロータリーに限らずあらゆる団体で自己増殖機能があり、人を増やそうという働きはあると割り切ってしまうとそれまでなのですが、我々はそろそろ会員増強について考えを改めないとするすると減り続け、その結果として、RIにおいて日本の主張が通らなくなるという大きな問題を抱えることとなります。単にクラブで増やしてクラブの負担を楽にしようという次元ではなく、日本の進化が問われているのが会員増強だと申し上げます。ちなみに13年前の日本のロータリー会員は13万4000人で、現在は8万9000人です。幸いこの地区はまだ日本一の会員数を誇っておりますが、東北のロータリーはもう1000人を切るか切らないかで、RIの基準は1地区の最低人員数は2000人ですから、これは早晚地区同士の合併という問題を避けられないということがあり、東北では地区委員会ができなくなっています。しかし、ガバナーが直接クラブと繋がるという意味では、風通しが良いということがあられるのかも分かりません。

風通しを良くするという意味では、新世代委員会を何故廃止したかというご質問ありました。これは

規定審議会で決まった新世代奉仕を第5番目の奉仕にしたということで、規定上はライラ、インターアクト、ローターアクト、青少年交換をやりなさいと書いてあります。ですからその委員会を大切にしなければいけないということで、それを束ねていた親委員会の新世代は止めることにしたのですが、その代わりにガバナーの私が直接委員会を見させていただいております。これは実は非常に評価を受けており、色々な委員会を階層的に積み上げるのは好ましくないのがガバナーが直接責任を取れ、というのが、ロータリー日本事務局の考えであります。従来小委員会だったこの委員会が大変活発に活躍していただける意味でも良かったと思います。また、新世代が第5部門になったということは、これから新世代について新しい事業がどんどん生まれてくる可能性があるということでもあります。その新しい事業を親委員会がやることになったら、組織上おかしいので、新しい事業は従来の4大委員会と並んで5番目の委員会で活躍してもらおうのが筋だと考えました。

実は地区の委員会は形骸化した委員会が多く、例えば社会奉仕委員会はその下にRCCや環境保全委員会があり、実はこの下の委員会が非常に活発にやっておられます。社会奉仕はあまりやるのが無いにも関わらず、人ばかり多いということです。国際奉仕も一緒に、下のWCSと識字率の子委員会ががんばっていて、親委員会は何もやることはありません。というのは、社会奉仕や国際奉仕はクラブに既に浸透しており、今更何を教育するかという問題があるからです。ですから私は、あまり活躍しない委員会に人を沢山配属するのは止めて委員長1人にして、それよりも実際に活動している子委員会に人を沢山配属した方が良いというアドバイスを致すつもりであります。

また、4月の規定審議会で決まった大事な事があります。それはEクラブというのを1地区2クラブまで作って良いと決まった事です。これはネットを通じてHPにアクセスして例会に出席するという形式のクラブでありまして、年に1回会合をすれば良いというピュアEクラブ、月に1回会合すれば良いというハイブリッドEクラブの2種類のクラブを作っても良いという事になりました。これはネットですから当地区でも検討しておかないと乗り遅れる問題がありますが、私は地区のIT委員会や所属クラブのネットの専門家に自動翻訳機能を付けるよう言っております。HP上には英語で届き、我々の手元には日本語で届くという機能を考え、この地区で作るEクラブは英語で配信するようにしようということです。ネットでやるクラブである以上、世界中に情報が飛んでいくわけですから、世界を相手に発信できるクラブを作りましょうということで検討を始めております。

実はこのEクラブというのはロータリーにとって、一種の劇薬でありまして、これができること恐らくロータリーとして2つのタイプのロータリアンができます。要するに、みんなが寄って集まるという機会が非常に少ないわけですから、ネットで結ばれるクラブ会員となり、会員相互の連絡が無いというような可能性がございます。会費は当然安いわけですが、会費が安いからといって既存クラブ員がそちらに入ることは考えられません。そうすると体の不

自由な方や、遠隔地の方や、仕事が忙しいけれども興味があるという方がお入りになり、全く新しい分野のロータリアンが開拓できるということはありません。しかし、それゆえに従来のロータリアンと全く発想が違った人が生まれてくる可能性があります。正直言ってとんでもないことを決定してくれたというのが本音であります。しかし、IT時代と言われる時代にロータリーがそういうことをしないで良いと言われると、やむを得ない気もしております。このEクラブの問題は我々のごく身近な問題であるということをお願い申し上げます。また、こういうEクラブができると、よそのクラブにメイクアップしてどうこうという必要が全く無くなる訳でして、今年度お願いしている「メイクアップはよそのクラブに出席して」ということは今後言えない話になろうかと思っております。

私の経験を申し上げて最後にしたいと思います。私が入会したのが、1972年今から38年前であります。当時、とにかく出席は100%しろと言われていた時代で、欠席は一切許されませんでした。ただし、ホームクラブだけ出ていてもいけないのでよそのクラブへも行くようにお話がありまして、たまたま東京クラブが日本で一番古いクラブだから一度行っておいでと勧められましたので、入会早々にメイクアップに参りました。行きましたら、大きな帝国ホテルのホールにビジター席が指定されており、そこへ座りましたらクラブの長老の方がテーブルマイスターとして座っておられ、ひとりひとりビジターに声を掛けておられました。そしてその方が、東京クラブの例会日が丁度226事件と同じになり、みんな苦勞して例会に出たという話をされたのを聞いてびっくりしました。私にしてみれば生まれる随分前の話でして、歴史上の事実としては認識していましたが、まさか経験された方から直接話を伺うとは思ってもみないことでした。それと同時に、よくそのような時に例会を開いたと疑問がありました。その当時のロータリアンの心境というのは、今では全く想像することもできませんが、非常に真面目にロータリーに取り組んでおられたということなのでしょう。そして、その長老の方は恐らく毎回そういう話をビジターにしていたようで、これがロータリーの基本だと思った訳であります。私のロータリーに対する思い出というと、ほとんどビジター先で経験したことばかりでございまして、実はホームクラブではあまりうれしい経験がありません。何気なく行ったビジター先での出来事がロータリーの経験、思い出になったということで、要するにビジターでよそのクラブを訪問することは、ロータリーにとって大事な事ですということを申し上げてご挨拶にしたいと思います。

## 第928回例会(10月19日)のご案内

フリートキング例会

テーマ：会員増強のために